

小児用肺炎球菌予防接種について

(Pediatric Pneumococcal infection)



肺炎球菌は子どもの多くが鼻の奥に保菌していて、ときに細菌性髄膜炎、肺炎、副鼻腔炎、中耳炎といった病気を起こします。特に髄膜炎をきたした場合には 2% の子どもが亡くなり、生存した子どもの 10% に難聴、精神発達遅滞、四肢麻痺、てんかんなどの後遺症を残すと言われています。

●接種対象年齢について

生後 2 か月以上 5 歳未満
(5 歳誕生日の前日まで)

※初回接種の月齢によって、接種回数や接種間隔が異なります。「詳しい接種スケジュール」をご確認ください。

●詳しい接種スケジュールについて

初回接種の月齢	小児用肺炎球菌
▼生後 2～7 カ月に至るまでに接種を始めたとき	4 回 1～3 回目(初回接種)は、27 日以上の間隔で 3 回 (2・3 回目接種は生後 24 カ月に至るまで。ただし 2 回目接種が生後 12 カ月を超えた場合、3 回目接種は行わない。追加接種は可能) 追加接種は、初回接種終了後 60 日以上おいて、生後 12 カ月以降に 1 回(標準は生後 12～15 カ月の間)
▼生後 7 カ月～1 歳誕生日前日で接種を始めたとき	3 回 1・2 回目(初回接種)は、27 日以上の間隔で 2 回 (2 回目接種は生後 24 カ月に至るまで) 追加接種は、初回接種終了後 60 日以上おいて、生後 12 カ月以降に 1 回
1 歳以降	▼1～2 歳誕生日前日接種を始めたとき 60 日以上あけて 2 回 ▼2～5 歳誕生日前日接種を始めたとき 1 回

●次の人は、小児用肺炎球菌予防接種を受けることができません。

- (1) 明らかに発熱(通常 37.5 度以上)をしている人
- (2) 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- (3) 当該疾病に係る予防接種の成分または次のトキソイドによってアナフィラキシーを起こしたことがある人
・小児用肺炎球菌⇒ジフテリアトキソイド
- (4) その他、医師が不適当な状態と判断した人

◎次の人は予防接種を受けることができません。

- (1) 明らかに発熱(通常 37.5 度以上)をしている人
- (2) 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- (3) 当該疾病に係る予防接種の成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある人
- (4) その他、医師が不適当な状態と判断した人

異なるワクチンの接種間隔について

「異なる種類の注射生ワクチン（BCG・MR・水痘など）どうしの接種間隔は27日以上の間隔をあけること」以外の制限はありません。

ただし、同一の種類のワクチンの接種間隔（例：ロタウイルスワクチンの1回目と2回目は27日以上あける）については規定がございますので、ご注意ください。

◎予防接種による健康被害救済制度

この予防接種による万が一の健康被害発生時には、予防接種法による給付を受けることができます。

2歳ごろまでの接種スケジュール（例）

	ロタウイルス	肺炎球菌	B型肝炎	五種混合	BCG	MR	水痘
接種回数	2または3回	4回	3回	4回	1回	2回	2回
2カ月	①	①	①	①			
3カ月	②	②	②	②			
4カ月	(③)	③		③			
5カ月					↑		
6カ月					①		
7カ月			③		↓		
8カ月							
...							
11カ月							
12カ月		↑				①	↑
13カ月		④					①
14カ月		↓					↓
15カ月							
16カ月				↑			
17カ月				④			
...				↓			②
22カ月							
備考	ワクチンの種類によって接種回数が異なる	開始する年齢によって接種回数が異なる	定期接種は、1歳誕生日の前日まで		定期接種は、1歳誕生日の前日まで	2回目(2期)は、年長児のとき	2回目は、1回目接種後3か月以上あける

この予防接種は防衛省からの交付金を使って実施しています。